夕刊
磐城新聞
九月五日發行
(日曜祭日翌日休刊)

金成通氏に就て

△□生

(三)

尚此外に、資本金三阡萬圓の東部電力株式會社監査役を永年勤務せしこと及近年は福島縣農工銀行重役として二期勤めて現職に在り福島縣金融界に不尠貢獻して居る事は今更申す迄もない。又先年居村錦村に於て是非にとて村長に抜選せられ三年間勤務して其間の報酬約壹千圓也を錦村に寄附した事も事實である。

然し概して言ふならば、縣會議員、所得稅審査員及磐東銀行專務を止めた後の氏は植田水電の土臺石を積むために暑い日も寒い日も休みなく居村錦村から植田町迄十年間一日の如く往復したものである。現在も亦左様である。

夏になると電工と同じく霜降の服を着て職工長兼專務長の様な風をした得々然たるを見受けたものだ。時には破鐘の様な聲で社員を叱咤するのを聞く事がある社員に對しては極めて厳なれ共、磐東銀行の昔から未だ曾て解雇せし事を聞かぬ又外出先より歸宅する時は夜九時でも十時でも必ず會社へ寄り、旅行すれば毎日一度は會社へ電話を掛けて會社の様子を照會すると謂ふ熱心さだ。

而して石城郡に過ぎたるもの資本金五百萬圓の植田水電本社の建物は植田町にも珍しい荒廢屋家で曾て製板工場だつたものが其儘拾餘年舊態依然として使用されつゝあるのである。然し建物が古ければ古い程基礎が堅く深く地中に打込まれて行く様に感ずる。發電所

や發電所が鐵筋コンクリートで屋内に塵一つなく整理されて居るのも面白い對照である。

今や世界的不況につれて經濟的國難に當面せる時、爲政者は策なく、國民の自力更生を呼號して居る時植電の基礎は變り無く縣下財界に一脈の温い血を送つて居るのは故あるかなである然し是も彼も氏の血と汗の結晶である。植電の基礎は確立して後顧の憂無く、今や會社の運行!それは唯既に完成した軌道の上を押せば良いのである。

事業方面に於て頼るべき人を持たず素手を以て孤立奮闘しなければならなかつた氏は修學の方面に於ても亦同様であつた。九歳にして慈母を失つた後は家庭的にも不幸な生立ちをしなければならなかつた。特に知識慾深く青雲の大望を抱いた勝氣な氏は他の青年が經濟上にも時間上にも充分惠まれて悠々として勉學の出來るのを如何に羨しく思つた事であらう。落合塾迄は兎に角として其後の勉強には人知れず苦勞した事であつた。其氣持は五十四歳の今日迄少しも忘れる事なく深く心に銘じて居るから青雲の志を持ち乍ら經濟的に惠れない貧困の學生を養つてゐるのである。氏の援助に依り最高學府を出て又は出んとする者は數多ある。

時代警語

○身体髮膚之を父母に受く、敢て毀損せざるは孝の始めなり……(孔子)

強い身体には強い精神が宿るものである、斯くの如くして祖父母に受けたる身体髮膚を傷けざるもの。是れ即ち孝の始めと云ふべきである……

青い繪具

一木二郎

私の有つてゐる繪具はたつた一種青い繪具
私はそれで
猿の齒なかこうと思つた
青いお馬に乗つてゐる
青い子供
それから先などうしよう
『青い野兎ゐるかしら』
父さんに訊くと
『ゐるとも坊や
そりやゐるよ』
青い野兎かいたけど
私はあとで步へた
いつそ青いやぶに
かき變へよう
けれど
青いやぶでも氣に喰はぬ
それで私は
青い樹に變へてみた
それら私の氣に喰はぬ
乾草堆にしてみたら
とうとう
紙一杯が青い繪具に
なすられて
私は怒つて引き裂いた。
トルストイ『幼年』より

ドッチボール競技會に

梧桐蔭子

○彈丸のそれの如くにうちかはすボールのひびき秋によろしも
○赤銅色の面は玉なす汗のして凛々しき男子うまず戰ふ
○勇ましく戰ひてなほ勝てざりし選手のまなこ物いひたげなり
○小さき勇士疲れの色もみせずあり魂のかがやきかたのもしといはん
○この勇士れきらはん術のあらなくていとしき心もてひたに感謝す

社會の今日

○
休暇あけテニスコートの土親し　風骨
紫蘇の實のしごくや指にごそと減る　醉花

9月6日
△幕府銅の海外密賣を禁ず(安政六)△日露講和事件に就き帝都騒擾す(明治三八)△全國消防組の服裝統一に決定△ウイルキンズ大尉のノーチラス號破損の爲北極を隔る四百五十浬の地點より引返す(昭和六)

『月刊文藝』の創刊

高木直吉

同人結社として一つの發表機關を世に問ふ以上、不眞面目なゴシップや何等論點の認識出來ぬ個人攻撃や安價なる漫談で頁をふさいだりするのは、其の雜誌——個人が文藝の本質を把握してゐぬ事を立證するもので、少く共藝術的誠意を持つ我々の認めぬ處である。

又文藝的常識と單なる經驗とが獨裁的に投稿者の作品の上に君臨する如き事があるとするならば、それは安價なる自己をさらけ出す以外の何物でもあり得ないのであつて、例へば編輯者の主觀を以て投稿者の作品を改作し檢閱批判し、作意を没却し去るが如きは我々の反省すべき事ではあるのである。先づ今日の詩にあれ民謡にあれ俳句にあれ殊に短歌に至つて、その根源的本質が生命活動の直接表現であり『生と共に』存在する極めて個性的情緒の象徴であるからである。

我々は以上の如き藝術的良心と誠意とを以てこの度『月刊文藝』を創刊する機運に際會したのである。體裁は新聞紙型の嶄新なるもの末記の如き作品の研究發表機關とし、上述の如き各個人の個性を經とし、鄕土性と新時代の文化財とを緯としたる强靭眞摯なる殿堂を築き文藝界に貢獻したいと庶幾ふものであつて、何人の加入投稿も喜んで歡迎するのである。大方の發表機關として本紙を利用されん事を茲に切望する次第である。

圖十月創刊號原稿募集
一、短歌俳句　十首まで
二、詩民謡　三篇まで
三、歌論、詩論、俳論、民謡論　三枚まで
四、九月十五日締切
五、送稿は其社又は同人宛(何れも小名濱町)
小名濱町沖見町一五月刊文藝社　濱野勁一(俳)　小濱牧泉(民)　高木直吉(歌)　薄澤ゆきじ(詩)　佐川和弘(歌)

講談　お蘭陀お蝶 (125)

渡邊默禪作　布施長春畫

私も怖いから歸らうと思つてまご〳〵してゐやすと向ふから鎗や鐵砲を持つた百人近え、侍スタ〳〵駈けて來たつてえ一件だ、さあ大變だと泡を喰つて路傍の土堺にピッタリと密着しておつかなびつくりに見てゐやすと、眞先に采配を揮つて進めと聲をかける甲冑扮の若武者がゐるから勇ましえこつたと思つて、ひよい!と其の顏を見て驚いたその大將こそはソレ私が當家で二三度お見かけ申した、大鹽様の若先生、格之助さまぢやごアせんか』

其の一語が耳に這入つてるお吉は吃驚した様に顏をあげた

『あら、格さまだよ!!格さま、オホ格さま、お憎らしいことね、えあなたは……よく私をお嫁ひなさいました、よく恥をおかゝせなさいました、ア、口惜しい如何してあげたらいゝだらう!』

わつと泣いて、いきなりお各の髮を掻きむしるので

『あれお嬢さま、私でございますよ、ア、痛え御免遊ばせ、婆やの髮を如何遊ばします、モシしつかりして下さい』

おろ〳〵聲で賺かし立てた

『オホ、、、痛いのは當然さ、私をこんなに苦しめて切ない思ひをおさせなさるんだもの、オホ、、いゝ氣味〳〵』

今度はうつとりした眼でお各を見上げて他愛もなくげら〳〵と笑ふ

『困つたね、時も時とてな騒ぎのさ中に……此の有様を御覽なすつたら、お内儀さんはどんなにか心配を……ア、お聞かせ申したくない、お目にかけたくない如何にかしてお氣の靜まる工夫はないものかしら……モシ番頭どん、番頭どん』

お各は持て餘して人を呼んだが、番頭の話に胆を潰して顫え上つてゐるのか誰一人聞きつける者がない、どや〳〵と立騒ぐ氣配もする

番頭は何ともなるやうな聲で

『まあ、なんでござんす。此邊は大丈夫だらうと思ひやすけれど要心に如くはないだ、是から土藏の目塗をしやすから大事な品は皆入れなせえ、そして女衆だけ立退きの仕度をなさいやし當家さまはそれでねゝが心配なのは私のとこの野郎だ丁度一昨日の晩お龍といふ嫁を貰つて、祝言をさせたばかり昨晩は夫婦揃つて里の方へ出かけたんでげえすが、お龍の家といふのが天滿の北新町だから萬一の事がなけりや可いがと案じてるんでイヤとんでもねえ時に祝言なんぞさせたもんで』

お吉はきりつと眉をあげ

『あつ!お柳が、し、祝言アノ祝言とう〳〵格さまと夫婦に……ざ、ざ、殘念だつ……おのれお柳奴、そ、そのまゝにして置くものかつ!』

齒切して四股を顫はしてゐたが、忽ちむつくと起きから脱兎の様に躍り出した

『あれつ?お嬢さま?お聞き遊ひですよ、コレ何處に行らつしやいます、お待ち遊ばせ、モシお嬢様つ』

お各が退ひ縋つて其の帶際を促まえると、どんと突きはなしてひよろひよろと

『お柳、待てつ!お柳待てツ!』

物凄い聲を宙に投げて店先の方へ走る

『アレ、皆さん押へて下さい、早く〳〵お嬢さまが、き、き、氣が狂れてしまひましたよ』

お各は叫んだ

家内中は總立ちとなつた急いで取り着く番頭小僧三四人、ずる〳〵と曳かれてばつたり

物の怪の憑いたやうな妖しい力はかよわい腕に溢れて、近附く者を苦もなく投げとばす。

二毛作擬賞

平町、神谷村農會主催の二毛作品評會褒賞授興式は八日午後一時から神谷農試分場で行はれるが平町の入賞者左の如し

△大麥—三森長次郎、高島亥之吉、白土助次郎、猪狩金太郎、遠藤彦治、青木甚平、鈴木淺吉、松崎龜松、吉村富吉　△菜種—猪狩喜惣兵衛、高嶋鶴吉　△紫雲英—鈴木惣五郎、菜花新吉、鈴木定藏　△甘藍—大谷利定

。。。。。小麥增植講演會　錦村役場で八日午後一時から開かれるが講師は縣地方駐在米山技手である

。。。。。第二校賞狀授興　平第二校では昨三日から夏休中の成績品展覽會を開催し今五日朝會に於て尋一坂内紀子外四十七名、二年馬目輝子外四十三名、三年馬目靜外四十八名、四年松本つ[illegible]外三十五名、五年桐谷つね外四十四名、六年阿部トシ子外三十八名、高一島田延子外三十二名、高二稻邊ユキ外二十三名、計三百十一名に賞狀授興をなした

。。。。。小野氏講話　英語受驗指導の權威小野圭次郎氏は今五日植田へ展墓歸省の序を以て午前九時から磐中に於て三年生以上に對し英語に關する講演をなした

。。。。。大谷訓導歸校　短期現役として除隊となつた平第一校大谷檄訓導は米本氏の後任として四年三組を受持つ事となつた

。。。。。取立金を横領　東京府下尾久町上尾久飯高兵助(四六)は豊間村沼之内大和田喜代治(五三)から債權取立を依賴され二十五圓を横領した廉で目下平署の取調を受けて居る

ラヂオ

……六日・(火曜)……
仙臺 JOHK

△前六、〇〇A ラヂオ體操
△六、三〇A 家庭教育講座(個性を活かす教育)大阪教育研究所長大伴茂
△七、〇〇B エスペラント講座　進藤靜太郎
△九、〇〇A 氣象
△九、一〇 料理獻立(鰹の三洲燒)一戸伊勢子
日用品値段
△一〇、三〇A 家庭講座(挿花の根本を語る)增田喜峰
△正午A 時報　氣象
△後〇、〇五 浪花節(伊達の華女夫武勇傳)東武藏
△四、〇〇A ニュース
△二、〇〇A 婦人講座(現代と日本婦人)文學博士深作安文
△二、五〇 六、〇〇A 運動競技(ミシガン大學對法政大學野球試合狀況)豫備日
△三、四〇A 氣象
△四、〇〇A ニュース
△六、〇〇(子供の時間)お話(小鳥とわたし達)熊谷三郎
△六、二〇A コドモの新聞
△六、二五 カレント、トピックス　ハロルド、パーマー
△六、三〇A 夏期英語講座　鹽谷榮
△七、〇〇A ニュース　氣象　生繭相場
△七、〇〇H 講演(科學上より見たる水及び空氣のスポーツ)東北帝大教授工學博士宮城音五郎
△八、〇〇 講演(オリムピックに臨みて)派遣女子水上選手
△八、三〇 神社祭典樂　山形師範生徒柴田たか
△九、〇〇 錦風流尺八(鶴の巣籠)山谷孤山
△九、三〇A 時報
△九、三一A 滿洲より　ニュース　氣象　生繭相場

斷然五割安決行

何が梅月をそうさせたか?
それは時代の要求である!!!
先づ此の値段を御覽下さい。

冷ビール	(をとほし付)	卅五錢
生ビール	大ジョッキ	四十錢
	大カップ	八錢
上酒	一本	十二錢
ウイスキー	一杯	八錢
サイダー	一本	十二錢
うどんそば		五錢
冷しうどん		七錢
カレーうどん		十錢
冷むぎ		十五錢
カレーライス		十錢
天どん		十五錢

みつ豆、氷水一切
其他何品によらず市價の五割安
平驛前通り(新藤屋前)
梅月食堂

御子様用防水マント
御子様方の御通學に是非必要な防水マントを種々取揃へました。
◈ゴム引………0.85より
◈中ゴム………1.30より
◈同(女兒用)…1.40より
通學服も種々取揃へて御座います。
おかや洋服店　平電三203

セダン揃ひで!
貸切專門の!
昭和タクシーへ
三四三番

專門　一般内科
内科ハ何デモ診療致シマス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五(電話一八一番)
川井内科診療所
醫學士 川井重之
女醫 川井安子

金銀高價買入
根本時計店
電話六〇七(三)
質札は(金時計鎖指輪類)有利に御相談致します。
平町田町　丸新デパート

内臓外科
整形外科
泌尿器科
外科
産婦人科
醫學士 内木宗八
木村病院
平町新川町十九番地
電話一六四番

産科
婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井阪醫院
平町田町(元合津醫院跡)
電話五五九番

内臓外科
外科一般
花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡(電話四七五番)
安齊外科醫院

月曜論壇
平町の商業道德

所謂匡救事業の實行によつて日常の生活苦を緩和さるる失業者と繭價の奔騰に惠まるる一部農家以外、大多數の消費階級にとつては未だ何等經濟事情の好轉を見ざる今日に於て、或る種の日用品物價に急激なる騰貴を見たのは時節柄之に勝る迷惑は無い、而も這般の釣り上げが經濟學的根據を有する不可避の現象なりとせば何人も之を首肯するであらうが、徒に近來に於ける糸價の奔騰に唆られ、漠然として今後の騰貴を豫想し、從來二束三文に仕入れた在庫品を法外の高値を以て販賣せんとするが如きは平商人の商業道德として絶對に排撃せねばならぬ病弊であつて以前安價なりし仕入れの時期を考慮に入れず漫然として何等根據無き値上げを行ふ事は永らくの疲憊に喘ぐ多數町民を向ふに廻して甚しく親切を缺いた遣り方と云はねばならない物價異動の轉機に際し平町商人の良心に愬へて止まぬ

在平記者野球團

侃諤の立論に燃犀なる觀察に、凡そ新聞記者たるの全能を發揮して遺憾無きを期せんとするには、必須の前提として先づ所謂健全なる精神の母体たる健康体を造り上げねばならない、之の意味に於て客觀的には靈肉兩方面とも常に極めて頹唐氣分の裡に終始するかの如き新聞記者によつて新に野球チームの編成を見た事は、聽て之等の人々によつて行はるる日常の通信報道上に其の間一種明朗の好結果を招徠すべく豫想する事が出來る、蓋し新聞記者の一大禁物たる偏狹狷介は歷隊進退の不活發から來る神經衰弱的病弊に根源するものであつて實に健康なる身体の準備こそは社會の種々相に對する觀察批判の正鵠を愆らぬ上に於て必須缺くべからざるの條件と思惟するからである、即ち在平記者野球チームにして日常固有の職責を果す上に於て堂々たる戰ひを信條とするスポーツマン・スピリットを傍系の修養目標とする時は啻に自己を利する事尠からざるのみならず延いて社會民人の上に及ぼす影響も絶大なるべきを信じて疑はない、敢てこの集團の健全なる發達を祈念して措かぬ所以である。

匡救事業の尊重

臨時議會で協贊を與へられた農村救濟大土木費(七千三百萬圓)に就ては一昨三日山本內相から他地方同樣本縣へも通達された事であらう、而して之に關する其筋の方針として擧げられた

一、就勞の機會均等　二、緊急有用の工事選擇　三、工事選擇の情實廢除　四、年度內完成　五、不正行爲芟除

は飽迄工事の公正を期する上に於て數項中その何れをも欠く事の出來ぬ必要事であるが就中不正行爲に對する嚴戒は從來此方面に於て或る種の實例を見聞せる吾人としては該事業の性質上此際須く協力一致以て其間秋毫の遺漏無きを期せねばならぬと思ふ

繭價奔騰時代
或は?が遂々現實に　最高五十圓を突破す
三四兩日の地方取引況

三、四日の繭市況左の如く最高は終に五十圓を突破する事六十錢、買馴四十七圓三十錢の高値を見せ愈々養蠶家を熱狂せしめて居る

四倉　三日―白千百六十三貫、最高四十九圓四十錢、最低三十五圓、買馴四十五圓八十錢、掛目四十五、黄三十三貫、最高四十三圓五十錢、最低四十一圓、買馴四十一圓七十錢　四日―白七百九十七貫、最高五十圓六十錢、買馴四十七圓三十錢、掛目四十七　黄六貫、最高四十三圓六十錢、最低三十八圓、買馴四十三圓四十錢、掛目四十三

植田　四日―黄貫數五百三貫、最高四十二圓五十錢、最低三十九圓十錢、買馴四十二圓、掛目四十一

滿洲行
藤田中尉
―第六十六信―

廢墟の南嶺

◇私は支那馬車を驅つて土地の在郷軍人の同車を乞ひ單獨この廣い激戰地を一巡した。練兵場の西南方丘の綾線には楊柳の並木が見事に茂つてゐたがあの線からの我軍の前進は何一つ利用すべき地區も地物もなかつたので非常な苦戰であつたそうだ。

◇鏡の樣な平坦な練兵場其中間地區に標柱が立つて居る、奮戰○隊の標識である。こんな所を前進するのは寧ろ無謀に近い冒險である共思つた東西に位する步兵營に近づいて見ると外園の堤防近く數ヶの墓標が立つて居る。大黑伍長、佐々木上等兵、鈴木伍長、佐藤上等兵と其處邊りに前後し折重なつて斃れたであらう。墓標の[illegible]らには[illegible]々さゝやかな

◇標柱が建てられてある、それには『敬弔大日本女子青年團建之』側面には『昭和六年十一月二十一日』と書されてあつた。同團の代表者がこの戰跡に亡き英靈を弔ふたのであらう。厚い土壁には幾つかの突擊路が穿たれて居り兵舍は見る影もなく毀たれてある。私は其處に我將兵の奮戰振りが髣髴としてならなかつた

◇兵舍の間路を通り拔けて東側の表通りに出て見た、波狀地に富んだあたりの地形には草も木も青々と生ひ茂つて居て日本內地の何處かに似ても居そうである。○兵營の圍壁は頗る堅固で高さ三米、厚さ四十糎位の煉瓦壁だ、而してそれには無數の彈痕が鮮に殘されて居て激戰の跡を偲ぶに充分である。所々に見る破壞口、その突擊路を造るためには言ひ知れぬ[illegible]戰も苦鬪もあつたのだ。償ひ得ざる尊い犧牲も拂つたのだと考へ及んだ時一つの破壞口を見ても斷腸の思ひのないものはなかつた。第一、第二の○兵營の前には大きな道路が圍壁に沿ふて通じてゐる、楊柳の並木が路傍に平行して長く續いてゐる、其處の凹地には未だ生々しい戰死者の塔が幾つか建てられて立上る香の煙も恨めしげにゆらいでゐた

◇『こゝが倉本大尉戰死の所です、道のそばに○隊長と一緒に居つた總ての者は相前後して斃れてしまひました。そこの土壁の直下の所で手榴彈のためにやられた者も相當あります』と言ふ戰死の跡には新しい墓標がせり合つて立つてゐる○隊長を中にしてその後に土田上等兵その横に太田伍長、芦田少尉等七八人いづれも○○○隊○兵第○○隊第○○隊の面々である

生徒の境遇を調べ　退學防止に資す
平商業校の創案

磐中、高女、平商の二學期初頭に於ける退學者は既報の如く十餘名に達し各校では善後策を考慮してゐるが大半は東京方面の見習子弟として實業につく二、三年生に多く平商校では時節柄苦學してゐる者も相當あると思惟されるので近く一齊調査をなし夫々便宜を圖る意向である、尙は同校では更に最近三年間卒業生を月一回位づゝ招集指導をなすべく計劃中であると

公民校開始
入學者二十三名

平公民學校では今五日午後七時から開校式を行つたが入學生は左記前期六、後期十七計二十三名である

後―根内秀夫、本多一、茅根三郎、四倉實、大原金治、野木三男、根本太郎、古川馨、筒井義夫、宇佐美安友、大谷三郎、阿野田友義、渡邊忠衛、齊藤秀夫、平井鐵三郎、箱崎英雄、豬狩德治　前―高木萬佐雄、中川元一郎、白石要、石川茂男、川崎一郎、菅野正夫

縣聯合青年團　体育大會の
郡代表選手決定

來月二日の縣聯合青年團体育大會に出場する郡代表選手は昨四日詮衡左の如く決定した

百米草野仁(小名)四百米大谷岩雄(內郷)千五百米小貫新一(內郷)一萬米關場喜平治(平窪)走巾佐藤乘助(泉)走高 鈴木武雄(內郷)砲丸佐藤乘助(泉)八百米リレー草野仁(小名)川又多三郎(內郷)瀧口今朝吉(內郷)中井川明(內郷)劍道加藤幸一(好間)田子三郎(三坂)木田芳重(草野)相撲田中芳太郎(豊間)高橋弼(平)鈴木福太郎(豊間)柔道阿部克英(神谷)安齊利三郎(平)荒井久(上遠野)

平軟式野球大會
第二回爭霸戰
來月上旬開催の豫定

平軟式野球協會主催マルトモ運動具店後援の第二回爭霸戰は過般來關係者間に於て協議中の處來月上旬に決定した昨年第一回の參加チームは廿五組に達し非常なる盛況を見たが今大會は一層の盛會を豫想されてゐる

保護者會長
井上氏に決定

平町小學校保護者會評議員會は昨四日午後二時から第一校に開かれたが會長井上貞二郎氏、副會長大嶽庫氏に決定した

磐中生が海軍飛行機へ献金

磐城中學校職員生徒千百餘名は各十錢宛を醵出全國中學校の海軍飛行機資金へ十日送金する事となつた

豫審終結
近く陪審公判へ
內郷の殺人事件

六月十四日內郷村高坂御殿山磐炭坑夫竹田康麿(三四)を泥醉の結果殺害した小名濱町字古港前科二犯魚行商月山嘉信(三四)の殺人事件は平支部藤原豫審判事の手により審理中の處今五日終結決定し陪審公判に附された

前年同期に比べ　五分見當の增加
去月中の平局取扱件數

平郵便局去月中の各種事務取扱件數は左記の如く昨年同期に比し五分見當の增であつた

△貯金受三千五百口十一萬七千圓、拂二千二百口十四萬三千四百圓　△爲替受千口二萬百圓、拂千五百口五萬九千五百圓　△小包受千四百口、配三千四百口　△書留受三千五百口、配四千百口

秋刀魚漁船出動
仙縣に機先を制せられ　豫定より一旬を繰り上ぐ

江名町秋刀魚漁業の灘引は來月一日から投網開始の豫定で準備を進めて居たが茨城、宮城、千葉各縣では既に今月一日から出漁し密かに同濟沖にまで出沒するに至つたので今月二十日頃から出漁する事となつた

施療三百六十人
暑中休暇を善用して
―磐城訓盲院生徒の義擧―

磐城訓盲院では去月一ぱい夏休中大塚、恩田兩教員外六名の在院生により病者の爲め毎日午前八時より十一時迄校內治療室に於て按摩鍼術、電氣マッサージの無料療治に從事したが受療者延人員男百三十八名、女二百二十五名、合計三百六十三名、一日平均十二人一分の割合で患者病類別次の如くである

肩の疲勞四七、坐骨神經八、腰痛、白神經各五、リウマチス、關節炎各三子宮、喘息各二、關節捻坐、打撲、半身不隨、テタニー病、オソ病、動脈硬化に因るハコー、心臟疾患、脊髓、消化器、痰咳各一、合計九十六名

御神火の大島で　熱愛の夫婦心中
悲歎の宮田青波君一家

平町鍛冶町二六左久馬氏長男鐵業主宮田誠吉(三三)君妻キヨ(二四)の兩名は去月二十六日夜無斷家出したので家人が心當りを搜索中伊豆大島で夫婦心中を遂げたものの如く三日波浮の港局から死体引取方の電報あつたので同夜實父が同地に向つたが同人は青波と稱して詩南車の同人で且南町日本基督教會の信者であつた自殺の原因不明なるも前々から覺悟したものらしく南町袋屋小谷勇太郎二女である妻キヨとの婚姻屆等も最近その手續きを濟ませ昨四日は詩南車の原稿を田町高久病院長に送つた旨と自殺する旨の葉書が某處に寄せられた

井に浮く老婆の死体
鍋洗ひ中轉落したのを　夜明け後に家人が發見

內郷村御台境無職草野トリ(六〇)は三日夜裏井戶で鍋洗ひ中誤つて轉落溺死せるを昨四日午前五時頃家人が發見し屆出により平署から係官が出張檢視した

四倉海岸に　溺死体揚る

◇鯛の難破漁夫　沖合に出漁中時化の爲しごとにならずしき返さんとする途中難破して行衞不明となつた四倉町新町楠本德次郎(三二)方使用人根本箱吉長男一(二六)の死体は青年團、消防隊が極力搜査中の處五日午前六時頃同町仲町地先海岸に漂着したと

深夜の入山社宅で　屋內を覗く怪漢
密行の警官が檢擧泥を吐かす

昨四日午前二時頃湯本町入山炭鑛第四坑人事係主任佐藤熊男氏方の家內を覗いてゐる怪漢あるを密行中の平署員が發見取押へたが右は當時住所不定無職炭城縣多賀郡日立町生れ吉田正元(二二)で去る四月中盛岡少年刑務所を脱出以來各地で窃盜を働き前夜同社宅大塚論方に忍び入り現金十圓を窃取した外社宅專門に十數件を荒し廻つた事判明各地に照會目下嚴重取調中である

無屆車處罰
平署の方針決定

平署管內自轉車リヤカーの鑑札更新は此程大体終了したがリヤカーの無鑑札が非常に多く今後は發見次第處罰する方針であると

。。。。江名隔離舍閉鎖　江名町今夏中の傳染病患者は腸チブス八、疫痢一、ヂフテリア一、合計十名で二日隔離病舍を閉鎖したが經費は昨年より二百圓を增し二千三百餘圓に達した

。。。。泉藩史調査　石川文部省囑託は泉藩史調査の爲今五日同地に至り小學校に於て舊藩士其他有志と會見種々調査する處あつた

。。。。江名兒童美化運動　江名小學校六年以上の生徒は每朝午前五時から道路の美化作業に從事し町民から感謝されてゐる

。。。。菅本新商友會長　平商校商友會では會長谷口長治氏死亡の爲昨四日午後七時からマルトモに於て評議員並幹事會を開催し後任會長として菅本利男氏を推薦承認を得る事となつた

。。。。平町車鑑札付替　來十二日から二日間平署側廣場で行ふ

大崎一郎が復た暴れる

平町田町大崎一郎(二七)は三日午後五時頃五丁目某飲食店で飲み合はせた鍛冶町鈴木清光(三二)に喧嘩を吹きかけ、銚子を揮つて同人の前顏部を毆打し全治二週間の傷を負はせ被害者が立町木村醫院に連れ込まれるのを見極め其足で二丁目關內酒店に至り現金を所持せるが如く裝ひ一圓札を崩してくれと稱して相手が出した五十錢銀貨二枚を持ち逃げし南町裏溝通りで素見客に喧嘩を吹きかけたが誰も相手にせぬので更に驛待合室に至り亂暴中平署十二所部長に檢擧され目下取調を受けてゐる

炭鑛に活氣出づ

古河、隅田川兩炭鑛では最近炭況が幾分好轉し來たので從業員の整理を中止し反對に新規雇入れを始め稍々活氣を呈し初めた

。。。。湯本下水掃除　昨四日全町一齊に執行した

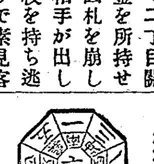
。。。。自動車体檢査　平署で來月上旬執行する事に決定目下準備中

平町慶弔錄

△出生　鎌田町二四佐藤熊治五男晃

△婚姻　白銀町一三西白河郡金山村金山外之內一七高柳博明(三〇)大浦村上仁井田松葉一一二渡邊ハツ(二四)石川縣能美郡牧村上牧一二七北島能賀(四〇)四丁目五三遠藤リウ(三〇)

△死亡　白銀町三五札ぼろ市南十一條西十一丁目一二六二武田國四郎(三九)長橋町四二双葉郡龍田村井出木屋一二三猪狩富美子(二)



舊八月六日　火曜　庚午　先勝　開　室宿　九月六日

諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館

▲一白の人　名聲芳しく衆望を得る幸運日文書類注意▲二黑の人　元氣を振立てゝくわん徹に努むれば難事も達す▲三碧の人　衰運甚しく失敗勝ちに終る日病厄旅行注意▲四綠の人　人和はあれども望を遂げんは程遠し躍動凶▲五黄の人　物事有望に展開すべしと雖他の言に迷ふな▲六白の人　手際善く勝立調ひ後は人の賞玩を待つのみ▲七赤の人　大に進出すべき幸運に惠まる前途有望の日▲八白の人　福德圓滿の日起業開店普請造作移轉婚談吉▲九紫の人　伏兵に襲はれ敗北する如し又病厄怪我注意

夏期中臨時大特賣トシテ御願申シマシタ。石炭モ御蔭樣デ全部ヲ賣リ盡シマシタ就キマシテハ從來ノ石炭ヲ御願ヒスル事ニナリマシタカラ不相變御引立ノ程偏ニ御願申シマス。

◎正味十貫目　金三十錢
御注文ハ
―電話三七番へ―
阿部石炭商店
平停車場前
配達ハ一俵ヨリ致シマス。

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店　水戶線下館驛前(電話五五番)
支店所在地
茨城縣土浦町田宿(電話六五三 八二四)
常磐線關本驛前(電話平潟五四)
常磐線四倉驛前(電話四八)

營業種目
石油揮發油輕油、重油、モビールオイル、マシン油、機械油類、胡麻、種水、コールタール、カーバイト、植物油、石炭、コークス、ストーブ……
(型錄進呈)
◇安全、便利、經濟のスタデリナ石油コンロ
◇完全燃燒のネンショーストーブ

電話新設
二九八番
右新設致しましたから御利用願上ます。
有隣生命保險株式會社平城北代理店
東洋白土株式會社常磐一手販賣部
佐々木龍若
平町四軒町一八